

0.1秒で伸びる高速ベロ ミツバチを食べるカエル

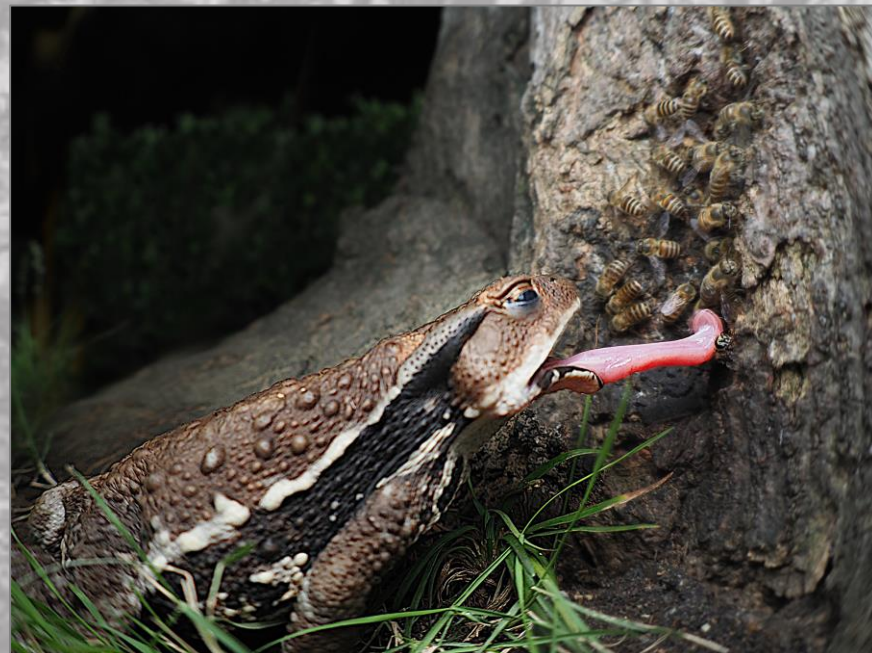
昨年8月、タツキが興奮気味に「めちゃくちゃ面白いものを見つけた」と写真を見せてくれた。そこには、**2匹のヒキガエルが木の根もとを凝視している様子**が写っていた。カエルの視線の先をよく見ると…**あ！ミツバチの巣がある！**なんと、木の根もとの空洞にミツバチが巣を作っていて、それを狙ってカエルが集まっていたのだ。ヒキガエルってハチ食べるの？！刺されても大丈夫なの？！「こんなの初めて見ました！」とタツキも驚いていた。

これはぜひとも見てみたいと思い、現場に行ってみた（場所は非公開、猿江ではない）。日が暮れて、草陰から現れたヒキガエルが木の根もとに陣取ると、**ピッと目にも止まらぬ速さで舌を伸ばして器用にミツバチを捕らえた！**ミツバチは巣の入り口で翅を震わせて威嚇しているが、なす術がない（たまにカエルの方に飛んでいくものもいたが、刺す様子は見られなかった）。一瞬で仲間が姿を消し、その場所に次の働きバチがやってきては、また食べられる、というのを繰り返していた。これ、ヒキガエルにとっては、**わんこそば方式で無限にエサが出てくる最高のえさ場じゃないか！**ここにカエルたちが集まるのも頷ける。木の根もとにハチの巣があって、かつ近くにヒキガエルが住んでいるという環境はそう無いだろう。珍しい場面を見れてとても嬉しい。タツキに感謝だ（相変わらず、よう見つけるなあ）。

ところで、右の写真は、これまで100回連載してきたこのいきもの記の中でも**ダントツで撮るのが難しかった写真だ**（※1）。カエルの舌が速すぎるのだ。**ヒトの反応速度は平均0.2~0.25秒**だそうで（ウェブ上の簡単な測定検査をやってみたら、私は0.27秒だった）、舌を伸ばした瞬間にカメラのボタンを押しても、シャッターが切れるまでに0.27秒かかる。カエルが口を開けてから舌が伸びきるまでの時間は、調べてみたらおよそ**0.1秒**だった（※2）。こりゃあ無理だ。では、連写撮影ならどうだろう。口を開ける前からダダダダ…と連写しまくる。すると、カエルは連写の音に驚いてエサを食べなくなってしまった。これもダメだ。

どうしても、**エサを捕らえた“瞬間”を撮りたい**。そのためには、動きをある程度予想する必要がある。観察を続けて、いくつかの傾向に気付いた。まず、「食べた直後の数分は次を食べない」。そして、「獲物が目の前を動き回ると目で追って舌を伸ばす」。このわずかな傾向をもとに、じーっとハチとカエルを両方同時に睨みつけ、今だ！と思うタイミングでシャッターを押す（見えてからじゃ遅いからカンで押す）。何度やってもタイミングが合わない。そんなことをしているとカエルが満腹になってしまってその日は終了。また違う日にトライする。自分の反射神経の遅さに苛立ち始めたころ、**奇跡的に1枚だけ撮影に成功した！**それがこの写真だ。やったー！とガッツポーズをして立ち上がったら、しゃがんだ姿勢で足が固まっとうまく歩けない。転げそうになった。

動画で撮れば良いじゃんと言われてしまいそうだが、たぶん、こうやって生き物と同じ視線で対峙して、思い通りにいかずに翻弄されている過程が楽しくて好きなんだろうと自己分析している。困難を乗り越えて静止画で撮ることに**ロマンがあるんじゃないか！**と意固地になっている。まだまだ満足していないので来シーズンも続けるつもりだ。



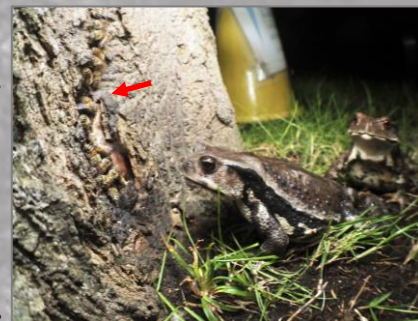
ヒキガエルがミツバチを捕らえた瞬間

0.1秒で繰り出す高速の舌。何度も試行錯誤を繰り返しようやく撮れた1枚。ただ、これはたまたま撮れただけなので、当てずっぽうではなくもう少し狙って撮れるようにしたいと思っている。来シーズンに期待。

毎年、年始に生徒と抱負を書き合っているが、2023年の私の抱負は「カエルの捕食シーンを撮る！」だったので一応達成できて良かった。

ミツバチ狩りの順番待ちをするヒキガエル

ヒキガエルは動いているものを食べる習性がある。木の根もとにできたミツバチの巣では、たくさんの働きバチが世話しなく動き回っていてヒキガエルの恰好のえさ場になってしまっていた。矢印のように羽ばたいて威嚇しているが、この動きが却ってカエルの食欲を促してしまっている気がする。



※1 ちなみに、その他の撮影困難度ランキングは大変だった順に、ツチスガリ (Vol.29)、アリとアブラムシ (Vol.9)、アブラコウモリ (Vol.32)、ワスレナグモ (Vol.30)、アメンボ (Vol.56)

※2 試しに撮影してみた動画 (30FPS (フレーム/秒)) では、口を開けてから舌が伸びきるまで3フレーム分だったので、0.1秒と判断した。